

イザベラ・バード シンポジウム in 金山2012



イザベラ・バード
(1831年~1904年)

イギリス・ヨークシャー生まれ。1878年(明治11年)から東京を起点に北海道まで旅をした。その様子を記した「日本奥地紀行」に金山で過ごしたことが記されている。

7月14日~15日の2日間、「イザベラ・バードシンポジウム2012」が金山町内で開催されました。イギリス人旅行家であったバードが、明治11年7月に金山を訪れ、「ロマンチックな場所」と讃えた風景と街並み。

バードの時代から学べるもの、今考えるべきもの、これからの次世代に受け継ぐもの。シンポジウムの開催は、町内外の人々との交流が深められ、今後の街並み景観づくりのヒントがいくつかみつかったようです。

多くの声が多か
れました。



講師の池内氏

初日は、講師にドイツ文学者でエッセイストの池内紀氏を招いての基調講演が行われました。テーマは、「日本の町、ドイツの町」。

日本とドイツの考え方の違いに触れ、どのようにして景観形成ができてきたかを歴史的背景から分析をした経緯を説明。「金山の街並み景観づくりは継続すべき」と池内氏。約140名の出席者が熱心に聴き入っていました。

二日目は、「バードの足跡を訪ねて」と題し、地域の方々が大切に保存管理している旧街道の上台峠や森合峠の散策を行いました。

参加者は、「シンポジウムを通じてバードに関する興味がますます沸いてきた。」「金山の街並みがきれいでバードの旅行記の記述内容もうなずける。」

など称賛する声が多かれました。



コーディネーター 矢口 正武さん
NPO法人元気・まちなっと
理事長/東京



パネラー 渋谷 光夫さん
アルカディア街道1・Bクラブ
副会長/山形



パネラー 浅倉かおりさん
プランナー&スローフード
山形会員/山形



パネラー 佐野 千晶さん
NPO法人元気・まちなっと
理事/東京

いつもと違う空間に自分を置くことも大事。蔵の会の活動を通じてたくさんの人と出会えて楽しかった。

●阿部さん

歩くことで新たに見えるもの、人との出会いがある。バードの旅は覚悟を決めて挑んだ気持ちの強さがあった。

●佐野さん

実際に歩きバードの気持ちがあわかった。

●浅倉さん

景観や住む人々の暮らしが観光資源である県内でも独特な場所。実際に歩きバードの気持ちがあわかった。

●渋谷さん

山形にはすぐれた文化遺産がたくさんある。その良さを子どもたちの世代に伝えるために本にした。

●矢口さん

便利さと心の豊かさ両面から考えながら、金山は今後どういう町を作り上げるか試されている。



パネラー 阿部 一代さん
蔵の会代表&並み案内人/金山



大堰公園内に建つ記念碑